



# ひかりのこつうしん No.10

2025/2/27

ひかりの子幼稚園

森の蠟梅(ろうばい)

「子どもと保護者と保育者が共に成長するとは・・・」

寒い日が続きましたが、森の蠟梅が良い香りを放ち春の訪れを教えてくれています。今年度もあと3月を残すのみとなりました。

この1年間の幼稚園の取り組みは、「保護者と保育者が一緒に子育てに取り組み、共に影響あって成長する関係になりたい」と願い、保育理念を念頭に置き様々な活動・発信をしてまいりました。保護者の皆様におかれましては、お忙しい中、園の様々な活動にご参加くださり、また、アンケートへのご協力を賜りましたこと、心よりお礼申し上げます。誠にありがとうございました。

保護者の方々からのアンケートを拝見しますと、そうした活動・発信に参加・触れることで、園が大切にしていることを理解し共感して下さっていることを感じます。そして、「わが子の見方」「親としての在り方」などにも目を向け、そこからご自身の成長に繋がられている姿も読み取れます。保護者の方々にとっても「自己肯定感」が育まれ、親として成長できる大切な数年間だと感じています。

一方、保育者もまた、保護者の方々との関わりや温かいお言葉によって励まされ、また一歩前を向いて歩みだせる気持ちになることがよくあります。そして何よりもどんな時でも担任保育者を信頼してくれる子ども達のまなざしに出会う時や、それぞれの子どもの成長を感じた時、保育者自身も「自己肯定感」が育ち、成長させていただいています。

そうした保護者の方々と保育者が互いに理解し合い、信頼し合い、労い合い、高め合って共に成長できる関係性が構築され、その関係性の中でお互いが育つからこそ、学園の掲げる子どもの心と身体の成長に繋がるのです。一方通行ではだめだと思えます。

保育理念のもとに行われる活動を通じて、それを保護者の方々が理解し少しずつ成長でき、保育者も保護者の方々や子どもに理解され支えられて成長する。その関係性の中で、さらに子どもが安心して伸びていくことが出来るのだと確信しています。

子どもを神さまから託された大切な一人の人間として、どの姿も今この瞬間の子どもの精いっぱい姿であること、子どもをありのままに認め、愛すること、子どもを真ん中にして子どもの頑張りや成長を喜び合い、保育者は保護者の方の願いを理解し、保護者の方々は保育者の思い(すなわち、学園の思い)を理解し、支えあい、協働しあう関係性が大切だと考えます。

「子ども・保護者・保育者が共に育つ」

そのためにこれからも様々な取り組みをし、発信して参りたいと思います。

暖かい春まであともう少しですね。皆様の健康が守られますように祈っています。

園長 松本 直子